

---

**(株)センチュリー興業 新事業開始！**  
**赤外線カメラ搭載のドローンなどによる非破壊検査サービスを**  
**2022年8月1日より提供開始**

---

コンクリート構造物や道路の切断穿孔工事を行う株式会社センチュリー興業(本社:神奈川県横浜市南区、代表取締役社長:渡部 暁美)は、空撮業務や探査業務などの非破壊検査サービスを、2022年8月1日(月)より提供開始します。なお、サービス開始に先駆け、当社は2022年7月20日(水)~22日(金)に東京ビッグサイト東展示棟で開催される「メンテナンス・レジリエンス TOKYO 2022」に出展いたします。

1954年から始まった日本の高度経済成長期に建てられた、学校、病院、ダム、橋梁、プラントなどに使われた鉄筋コンクリートの寿命は50年といわれております。つまり、2022年を迎えた今、すでに60年以上を経過した危うい社会インフラ構造物が多数存在している状況です。国は2012年中央自動車道で起きた「笹子トンネル崩落事故」以降、トンネル、橋梁は5年に1度の定期点検を法制化。社会基盤保全の必要性が高まっています。反面、予算不足や熟練工の人手不足で思うように工事が進まないのが現状です。従来型の点検や補修方法からより経済的に効率化を可能とする革新的技術や工法などが求められています。

そこで、市場の事業環境として、検査による事前確認がとて重要になってきます。

当社は、以下の設備を導入し、従来の自治体に加えて、官庁・民間企業に対して報告書をともなう非破壊検査サービスの提供を開始します。

- Flyability 社製 球体ドローン「ELOS2」
- ACSL 社製 国産非 GPS 環境対応型ドローン「PF2-Vision」
- KEYTEC 社製 電磁波レーダー「SIR-EZ XT」

同時に、レントゲン撮影の後現像工程をデジタル化することで、地球環境に優しい撮影画像確認も実現します。

▽空撮業務についての詳細はこちら

<https://www.k-century.co.jp/drone.html>

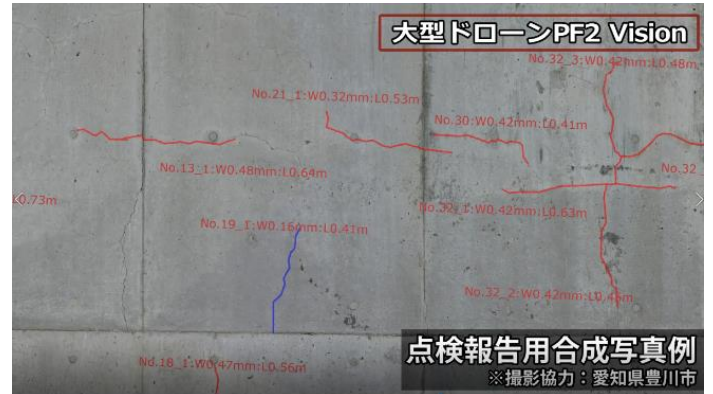
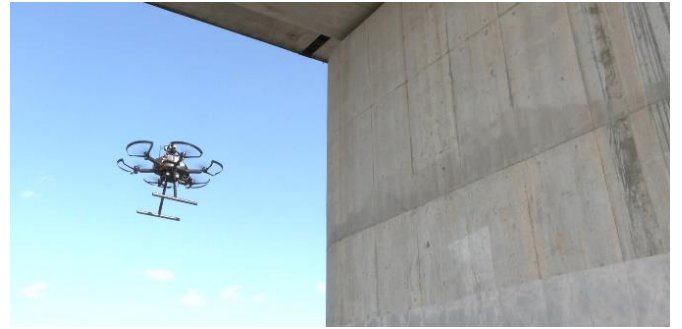
▽内部探査についての詳細はこちら

<https://www.k-century.co.jp/survey.html>

屋内点検用球体ドローン「ELIOS2」による空撮風景



非 GPS 環境型ドローン「ACSL PF2-Vision」による空撮風景



電磁波レーダー「SIR-EZXT」による内部探査 3D 表示



暗室不要の CR システムにより、レントゲン撮影後の工程をデジタル化。現場へ持ち込みその場で現像することも可能です。



## <非破壊検査サービスの特長・概要>

### 1. ドローン空撮業務

さまざまな空撮ニーズへの対応

「橋梁・トンネル・水管橋などの定期点検」や「施工現場記録写真」などさまざまな空撮ニーズに対応します。足場やロープアクセスが可能な現場設備でも、ドローンで1次点検をすることにより、精密点検が必要な箇所が特定できるため、余計な足場などを組む必要がなくなり、人力で行う点検作業の手間と時間とコストを大幅にカットがすることが可能です。また、赤外線カメラを搭載して撮影することにより熱画像からコンクリートの浮きや剥離部分を発見することが出来ます。「橋梁・トンネル・水管橋などの定期点検」では、暗くて狭い所が得意な Flyability 社製 球体ドローン「ELOS2」で橋梁の支承部分などに入り込み撮影します。また、ACSL 社製 国産非 GPS 環境対応型ドローン「PF2-Vision」に高解像度カメラを搭載し撮影します。GPSに頼らない自己位置推定機能と衝突回避機能を備えており完全自動飛行にて近接撮影を行うことで、構造物の損傷の確認が出来ます。ドローンで撮影した画像データを解析、どこに位置に幅何mmのひび割れが長さ何mmあるかなどの損傷図を納品致します。「PF2-Vision」に赤外線カメラを搭載することにより、目で見て分からない遮熱材の工事の施工前後の比較確認ができます。

また、【国土交通省】や【国土地理院】の各種の要領やマニュアル(案)等を網羅し、メタシェイプでの三次元データの作成、納品にも対応。「ドローン測量」も致します。

### 2. レントゲン撮影の後工程をデジタル化し、地球環境に優しい撮影画像確認を実現

従来の X 線撮影の後工程では、フィルムを現像するため暗室に籠り、薬液に浸して現像作業を行って来ました。

現像するための薬液や使用後のフィルムが産業廃棄物となるため、環境負荷が問題になっていました。当社は環境に配慮し「CR システム REGIUS Σ II」によるデジタル化を図り、産業廃棄物を出さない地球環境に優しい方法を提案します。

3. 電磁波レーダー機器「SIR-EZ XT」:レントゲン撮影では厚み 30cmを超える躯体や、裏側にフィルムが貼れない擁壁、土間などは撮影できません。エックス線を照射する際は周囲に立ち入り禁止エリアを設ける事などが必要です。

そこで、レントゲン撮影ができない場所の探査に、電磁波レーダーKEYTEC 社製「SIR-EZ XT」を使用します。

この電磁波レーダーを使用することにより、コンクリート内部探査深度:60 cmの鉄筋を検出可能、縦横メッシュ状に 2D 測定し、それらを合成して 3D 画像を作成致します。また、電線管判別ユニットを使用し、見つけづらい活電線を検知できるようになりました。

## <出展する展示会>

展示会名:メンテナンス・レジリエンス TOKYO 2022

開催期間:2022年7月20日(水)~22日(金)

会場:東京ビッグサイト東展示棟(東京都江東区有明3丁目11-1)

(M5-224 社会インフラメンテナンス推進協議会ブース内)

▽展示会の情報はこちら

<https://www.jma.or.jp/mente/tokyo2022/>

## [社長よりコメント](#)

1986年(昭和61年)設立以来、長年にわたり培ってきた知識と経験を活かし人に優しいだけでなく低振動、低騒音、低粉塵など環境にも優しい企業を目指し日々努力をしております。

様々な構造物や建築物が耐用年数を迎え、リニューアルが必要になってきています。美しく住みやすい都市環境を維持・再生するためには、コンクリート構造物に対する穿孔、切断、破碎の解体工事は必要不可欠なものとなっております。現在弊社では、従来のロードカッター・コアボーリング等の熟練の技術に加え、非破壊検査の最新技術に着目し、デジタルレントゲン検査やドローンを活用した工事現場記録写真・橋梁ひび割れ点検・空中写真測量を行い3D点群ビューワー形式で納品致します。お客様は専用ソフトが無くても、現場に行くことなく3Dデータで土地の面積や距離、構造物の形状が判ります。プロフェッショナルとして特化した技術を様々な現場へ提供させていただいております。優秀な専門技術スタッフと共にお客様のご依頼を心よりお待ちしております。

**株式会社センチュリー興業 渡部 暁美**

### 【株式会社センチュリー興業について】

<https://www.k-century.co.jp/>

1986年2月3日に設立。

ウォータージェット工法、コンクリート構造物や道路の切断穿孔工事、埋設物の事前調査、耐震補強工事などさまざまな用途や状況に応じて、低振動・低騒音・低粉塵など現場や周囲の環境に配慮した工法と技術で、安全・確実に施工を行います。解体工事に伴う埋設物の事前調査から、施工、検査まで一貫してサービスを提供いたします。

また、横浜市のSDGs認証制度である“Y-SDGs”(※)に賛同し、「Y-SDGs standard」の診断を受け認証されました。(※)“Y-SDGs”とは、事業者等の皆様のSDGs達成に向けた取組を横浜市が認証する制度です。認証制度を活用し、SDGsに取り組むことで、持続可能な経営への転換、新たな顧客や取引先の拡大につなげるとともに、投資家や金融機関がESG投資等の投融資判断に活用できる実用的な制度を目指しています。

▽当社ホームページサービスのご紹介はこちら

<https://www.k-century.co.jp/>

### 【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社センチュリー興業 営業課 小林智津子

TEL:045-716-2717

(☆受付時間 9:00~17:00)

e-mail:kobayashi-c@k-century.co.jp